

中越地震を体験して

三井田 慶斗

あの日から、もう一年が過ぎました。今、ふり返ってみると、とても大変な事でした。学校は当分の間、休みになりました。家の中もぐちゃぐちゃになって、足の踏み場もありませんでした。それに、電気、ガス、水道も何日もストップしてしまいました。あの中越地震は、ぼく達の心にも色々な被害をもたらしました。妹は今でも、丁度居合わせた図書

館に一人で行けません。弟は、一人で家にいる事が未だにできません。しかし、ぼくはこの中越地震で、二つの事を学びました。

一つは、人の心の優しさです。地震の日、ぼくは何も食べる事ができませんでした。翌朝に、近所の人々が、温かいスープを分けてくれました。町内では、パンが配られたり、それれぞれができる事を周囲の人の為にやっています。助け合いの大切さを改めて考えさせられました。また、学校には、神戸大学附属小学

校から千羽鶴が贈られました。全く知らない人達が、同じように被災したぼく達を思ってくれているのです。そう思った時、心と心が繋がったように感じ、本当に嬉しかったです。二つ目は、家族の絆の強さです。崩れた家の中を、早く元に戻そうと、家族で協力しました。余震の中でそれができたのは、家族の団結力があつたからです。今思い出しても、涙が出るほど、強く心に残っています。

ぼくは、中越地震を一生忘れません。それは、辛かつたからだけでなく、ぼくに、大切な事を気付かせてくれたからです。それは、普通に暮らす事ができる幸せな毎日を、一生けん命生きろという大地のメッセージだと感じました。ぼくは、これから、前を向いて精一杯生きていきたいと、強く思っています。